

国際協力

2025.1
新春号
No.82
JICA 駒ヶ根



JICA海外協力隊発足60周年

お祝いメッセージ



長野県池田町 町長
矢口 稔

海外協力隊事業60周年、誠におめでとうございます。私も平成10年度2次隊でソロモン諸島に視聴覚教育隊員として派遣され隊員を経験しました。異文化交流や課題解決の現場に立ち会う中で、多くの貴重な学びを得ました。私の場合、カウンターパートとともにソロモン諸島の島々を周り、伝統文化の映像記録収集や、テレビのない村での映像による食生活改善活動など現地の人々と一緒に毎日を過ごし試行錯誤したことを懐かしく思います。その経験した活動一つひとつが、現在の町長としての行政運営に確実に生きています。

皆様が築き上げてきた活動は、世界に希望と協力の輪を広げています。今後もその輪がさらに大きく広がることを期待しています。



ソロモン諸島 協力隊時代

2024年度3次隊 132名が入所しました!



本年1月7日、JICA海外協力隊の派遣前訓練のため、日本全国から132名の訓練生が駒ヶ根訓練所に入所しました。前日は雪が降っていたにも関わらず、駒ヶ根協力隊を育てる会の皆さんが沿道に歓迎旗をたくさん立てて歓迎してくださいました。いつも本当にありがとうございます。

ふしみしんのすけ

翌8日の入所式では、訓練生代表として伏見新之介さん(コロンビア/青少年活動)が宣誓し、「私たち百三十二名は、一人一人が自ら決意し、多くの方々のご理解とご支援を得て派遣前訓練に参加しました。その初心を忘れず、これから待ち受ける厳しい訓練に真摯に取り組み、JICA海外協力隊として海外協力の現場に旅立するよう、精進することをここに誓います。」と決意を述べました。

132名の訓練生の皆さん、73日間の訓練がんばってください!!



世界で活躍する 協力隊OB・OG

inヨルダン

アッサラームアレイクム。皆さん、こんにちは。5年ほど前に協力隊としてヨルダンで青少年活動に関わり、現在はNPO法人パルシックの駐在員として再びヨルダンに赴任しています。ヨルダンは北海道ほどの国土面積で、約75%が砂漠。ワディ・ラム砂漠は映画の撮影地として有名で、その独自地形から遊牧民(ベドウィン)の文化が今でも受け継がれています。

ここ中東ヨルダンは日本からは地理的に遠く、あまりなじみがないかもしれませんが、私は訓練所がある駒ヶ根市の出身なので、小学校のころ中東から来た先生にアラビア語で「アッサラームアレイクム」と

ノートに書いてもらったことが強く印象に残っています。日本語に訳すと「あなたの方の上に平安を」という意味になり、日常から挨拶としてよく使われている言葉です。

パルシックでは「民際協力」をミッションの一つに掲げており、人と人が助け合い、支えあい、人間的で対等な関係を築くことを使命として活動しています。私はレバノンで農業事業を担当しており、最も困窮している地域の一つであるアッカール県にて、レバノン人とシリア

難民が行うナスやキャベツの栽培を支援しています。レバノンでは2019年以降の深刻な経済危機に伴い農業生産が急激に落ち込んだことで食糧価格が上昇し、現在でも深刻な食糧事情が続いています。彼らが作った野菜は市場に出荷され、農家の収入になり、その収入がまた次年度以降の活動に繋がってきます。今後の活動としては、周辺のレバノン人やシリア難民800世帯への野菜バスケット配布を計画しており、コミュニティの食糧安全確保を目指しています。

ニュースやテレビで見ると中東は「危ない」「怖い」「戦争」というイメージを思い浮かべることが多いと思いますが、実際に住んでみるとむしろ人々の温かさを感じる人が多いです。日本と同じように「おもてなし文化」があり、客人に対して砂糖のたっぷり入ったお茶やコーヒー、料理などがよく振舞われます。一説によれば、水や資源に乏しい砂漠地帯は、誰かの助けを借りなければ生きていくことが困難だからこそ、客人や旅人を迎え入れる文化が形成されたと言われています。私も出かけた先の隣人家で、コーヒーやご飯を何度か頂きました。また、困ったときは誰かに相談したり、助けを必要としている人がいたら話を聞いたりもします。ここにいると、隣人関係や家族を大切にすることの大切さを学び、「人は一人では生きていくことはできない」と感じる人が多いです。日本に帰国した時は、この「おもいやり」精神や「おもてなし文化」の魅力を皆さんにお伝えできたらと思っています。



2019年度 3次隊
なかじま まさき

中島 雅樹さん
(駒ヶ根市出身)



協力隊時活動の様子



現地での夕食

PARCic
PARC INTERPEOPLES' COOPERATION



国境を越える、市民の力。
NPO法人パルシック

駒ヶ根訓練所 45周年 スタッフインタビュー

設備・管理スタッフとして
14年お勤めの笹森主任に
お話を伺いました。



ささもり ゆうさく
笹森 勇作さん



Q:どんな時に仕事のやりがいを感じますか?

A:何もない時です。訓練生やスタッフの皆さんが何も不便を感じずに普通に生活している様子を見たときに一番やりがいを感じます。僕たちの仕事の主は毎日の点検を怠らないこと。だから、「異常なし」の状態を維持できているということは、自分たちの仕事が上手くいっているという証拠。何か起きないように、前もって、毎日何度も点検・整備を行う。これが僕たちの大切な仕事だと思っています。

Q:思い出に残っているエピソードを教えてください。

A:昔は毎年大きな氷柱が屋根から何本も垂れ下がるほど寒かったです。そういえば、訓練所に勤めて最初の冬に80cm程の大雪が降ったことがありました。訓練期間中だったので、このままではまずいと思い、習いたてのホイロローダーをドキドキしながら運転して雪かきを始めたのですが、いくら片付けても、しんと降り積もる雪。雪かきが終わる頃には、

もう明け方でした。たった一人での除雪作業は本当に心細かったけど、現在となっては良い思い出です。

Q:駒ヶ根訓練所45周年のメッセージをお願いします。

A:隊員の皆さんの努力はもちろん、スタッフの協力や地域の皆さんの支えがあったからこそこの45周年だと感じています。僕たちは表だって何かすることはできないかもしれませんが、これからも影ながら応援サポートすることができたら嬉しく思います。



この後、機械室をご案内いただいたのですが、笹森さんの機械に対する愛情深さがひしひしと伝わってきてボカボカした気持ちになりました。機械の稼働音を聞いただけで調子が良いかどうか判るなんて、まるで機械のお父さんみたいですね!

能登半島地震から1年

震災直後の2024年1月3日から現地で支援活動に取り組んでいる
公益社団法人 青年海外協力協会（JOCA）災害対策担当の
堀田直揮理事と、JOCAスタッフの新井大介さん、
渡辺大介さんにお話を伺いました。



JOCA 理事
堀田 直揮さん
1998年3次隊
ジンバブエ、青少年活動

現地の状況を教えてください。

▶実は、水害被害の影響もあり、まだ仮設住宅に入れず、避難所で生活している方が300人程いらっしゃいます。壊れた家の解体については、やっと30%程すんだくらいです。

今回の地震では、能登半島の奥能登全域で約5割の家が壊れました。東北の震災の時には十数カ所あった支援ルートも今回はたった一つしかなかったこともあり、なかなか復旧が進まない。だから、仮設住宅に2月に入れた人もいれば、昨日やっと入れた人もいる。現在建設中の仮設住宅もある。復旧の進捗もばらばらなんです。

現在、どんな活動をされていますか。

▶能登半島地震で建設される仮設住宅6,800戸のうち、能登町、輪島市の約3,500戸の仮設住宅の見守り支援を私たちが一手に担っています。仮設住宅に暮らす方の健康や生活状況を継続的に見守りながら、安心して生活を再建できるように伴走支援する事業です。仮設住宅は狭いんです。輪島市では、家族2人までは4畳半タイプの仮設住宅で生活することになっています。そうすると、個人のスペースがない。寝るときも個人のプライバシーが守られない。どんなに仲の良い親子や夫婦でもストレスがかかりますよね。介護の問題もありますし、独居高齢の方などは、たちまち一人で孤立してしまう可能性が高くなる。だから、仮設に入れてよかったね、では終わらないんです。むしろ避難所にいた方が他人の目は届く。そういう中で、いち早く状況を把握して高リスクの人を見つけることが私たちの仕事のひとつです。



新井 大介さん
2007年4次隊
セネガル、村落開発普及員

今後、どんな活動を計画されていますか。

▶地域の人たちに元気になってもらうには、住民主体の活動を後押ししていくことが大切だと思っています。これは震災直後からずっと変わらない私たちの支援方針ですね。春にはコミュニティセンターができる予定です。輪島市に4カ所、能登に2カ所。地域の人が関わり合える日常の場所です。今回、災害支援の取り組みとしては、はじめて仮設団地の中にこのような施設を設置することができました。この場所を核に、地域の方と同じ方向を向いて活動していきたいと思っています。

私たちにできることはありますか。

▶まずは、能登に来てほしいと思います。まだまだ、復興の道のりは長いです。ここにいると、草の根、黒子としての協力隊活動の本質について考えさせられます。ここに来て、いろんな人の想いや暮らしに触れ、誰のために、何のために、地域にとって本当に必要なサポートは何か、感じてほしいと思います。



渡辺 大介さん
2003年1次隊
ベトナム、バスケットボール

【災害ボランティア登録】

支援に行きたい！何かしたい！
と思った方は、ボランティア登録をお願いします。
協力隊OBOGに限らず、
どなたでもご登録いただけます。



【JOCA支援情報】

もっと知りたい！と思った方は、こちらへ。
JOCAが、社会福祉法人 佛子園(石川県白山市)
と連携して取り組む令和6年能登半島地震における
災害支援に関する情報がご覧いただけます。



◀9月水害対応時の活動



仮設住宅見守り支援活動▶



公益社団法人 青年海外協力協会
Japan Overseas Cooperative Association

2025年 JICA海外協力隊 春募集が始まります！

◆募集期間

2025年3月21日(金)～5月9日(金)
日本時間 正午締切

◆応募資格

20歳～69歳までの日本国籍を持つ方
※詳細はJICA協力隊HPをご確認ください▶



◆募集に関する個別相談

【お問い合わせ先】

JICA海外協力隊募集事務局

オンライン個別相談フォーム▶

メール相談 ▶ contact@jocv.info

電話相談 ▶ ☎ 045-410-8922



◆長野県の募集説明会

日時：2025年2月22日(土) 11:00～16:00

場所：新小路カフェ(長野県長野市東町142-2 1F)

内容：国際協力・JICA海外協力隊に関する個別相談(随時)

13:00～13:20 JICA海外協力隊事業概要説明

14:00～15:00 JICA海外協力隊体験談

※参加無料、入退場自由

いつか世界を変える力になる

JICA
海外協力隊

第4回 駒ヶ根フォーラム



主催：駒ヶ根市

共催：外務省(基調講演)、独立行政法人国際協力機構(JICA)

日時：2025年2月15日(土) 13:30～16:40

場所：駒ヶ根市地域交流センター(赤穂公民館) ※オンライン配信有

内容：テーマ「海外から選ばれる地域づくり ～ネパールの事例から～」

- 基調講演(外務省国際協力局、独立行政法人国際協力機構(JICA))
- パネルディスカッション
- その他登壇者(駐日ネパール大使、駐日エクアドル大使)

※詳細は駒ヶ根市HPや市報でのお知らせをお待ちください▶



NEW スタッフ紹介

はなぶさ みわ
花房 美和



2024年10月から駒ヶ根訓練所診療室に勤務しております。協力隊では、看護師としてラオスに派遣され、地方の郡病院で活動していました。現在は駒ヶ根市の自然を満喫して過ごしております。訓練所では訓練生が健康に過ごせるようサポートさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

毎月2回！SBCラジオに出演中！

長野県の協力隊OB・OG、出発前隊員、駒ヶ根訓練所スタッフがSBC信越放送に出演し、協力隊体験談や派遣国の思い出の一曲などを紹介しています。

第3月曜日 13:13 ～ 13:30

【ミックス プラス】内のコーナー「協力隊と巡る音楽世界旅行」

第4土曜日 8:22 ～ 8:33

【武田徹のつれづれ散歩道】内のコーナー「地球色の窓をあけよう」

皆さま是非
お聴きください！



SBCラジオHP

2024年度 駒ヶ根訓練所 派遣前訓練人数実績

1次隊:165名修了、2次隊:182名修了、3次隊:132名訓練中



2025年、
JICA 海外協力隊事業は
60周年を迎えました！

JICA KOMAGANE
Home page



facebook



発行 独立行政法人 国際協力機構
駒ヶ根青年海外協力隊訓練所

〒399-4117 長野県駒ヶ根市赤穂15
TEL.0265-82-6151(代) FAX.0265-82-5336
E-mail jicakjv@jica.go.jp